



2014～15 年度  
国際ロータリー会長

ゲイリー C. K. ホアン

# Weekly Report Niigata



2014～15 年度  
新潟ロータリークラブ会長

高橋 秀樹



## ロータリーに輝きを

2014～15 年度 国際ロータリーのテーマ

新潟 RC 3月第 5例会 (2015.3.31) No.3081

### (1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

### (2) 高橋 秀樹会長挨拶

先週、卓話のゲストスピーカーの新田幸壽先生が 14 kgのダイエットをしたと仰っていましたが、私も 6 年ほど前に約 14 kgのダイエットをしました。もともと、私の場合はあまり外見に表れないようで、家族に黙っていたところ、妻が気がついたのは、すでに 7 kg減らしていた時でした。では、どのようにダイエットしたかという、食べ物に気をつけたことは勿論ですが、とにかくせせと歩くことにしました。それまで通勤には車を使っていましたが、家から職場までお天気が許す限りできるだけ往復歩くようにしました。最初は歩ききただけで精一杯だったのですが、一ヶ月もすると体が慣れました。

そうすると今度はただ歩いているだけなのが退屈になってきました。音楽を聴きながら歩いてみたりもしましたが、機器の操作が面倒になりました。結局音楽を聴くのは止めて、ぼんやりと歩くしかなくなってしまったのですが、そこでいつの間にか意識するようになってきたのが、鳥の声と道々の草木の様子でした。

鳥については、前々回少しお話したので割愛します。今日は草木についてお話しますが、最初に目についたのは、お庭をきれいに手入れしているお宅の様子でした。毎朝毎夕通りかかる度に庭木やお花が綺麗で感心するお宅がいくつかあり、その前を通りかかるのが楽しみになりました。しかしやがてそれも見慣れてくると、次に気になって仕方なくなってきたのが、道端の草花や雑草たちでした。

道端の花や草という、いかにもひっそりと遠慮がちに息づいている姿を想像しがちです。しかし、実際はアスファルトやコンクリートを押しよけるように繁っていて逞しく自己主張しています。ほこりや排気ガスを被って白っぽくなっていても、茎や葉っぱのハリは失われずにびんとしていて、その中から伸びてくる若葉は艶やかでみずみずしさに満ちています。花々は太輪のものは少ないとはいえ、様々な色合いと色調に満ちていて、アスファルトとコンクリートの間に、こんなにも豊かないどりの世界があったのかと驚かされます。とりわけ、よく晴れた日に、明るい日差しがスポットライトのように当たって草花を輝かせるときには、米粒ほどの小さい花にさえ圧倒されて、思わず足を止めるときがあります。こういったものは車で通勤していた時も同じものを見ていたはずですが、全く気づきませんでした。しかし、いったん気づいて意識するようになると、なぜ自分は今

までこれが見えていなかったのか、日々の生活の中の豊かさをどれほど取りこぼしていたのかとつくづく感じました。それ以後、海外に出かけるときにも、道々の草木に目が行くようになり、よく写真をとるようになりました。お話しばかりでも退屈でしょうから、何枚かご覧いただきたいと思います。単なる雑草ではつまらないでしょうから、色の鮮やかなものだけを少し選んでみました。ただし、私は内山さんのようなプロの写真家でもないし、田中さんのようなカメラマニアでもないで、上手な写真はございません。あしからずご容赦下さい。

さて日本の生活に話を戻しますが、今の季節に道を歩いていると、木の芽や若葉、花の蕾が目につきます。いつも同じ道を歩いていると、日ごとに少しずつ膨らんでくる様子を見るのが楽しみで、あんなに小さなものからこんなに大きな高揚感をもたらえるものかと、不思議な感じがします。とりわけ月曜日の朝は、土曜日と日曜日の二日間で木の芽がどれほど大きくなったか、あるいは蕾が開いて咲き始めてはいないかとワクワクします。そして、春になると新たな活力を得てくるのは、自然界の草木や動物だけではなくありません。組織もまた春になって新たな構成員を迎え、活力を増強するところが多いと思います。本日は三月三十一日です。明日の四月一日から新たな年度が始まる場所が多いかと思いますが、いわゆるアベニクスの効果もあって、新卒採用を増やした企業が多いと聞きます。みなさんにとっては、新人の受入になります。他方、私は大学の教員という仕事の関係上、卒業生の送り出しの立場になります。数年間身近なところで成長し巣立っていった若者たちが、就職先でうまくやっていけるだろうかと気にかかるところです。きっとみなさんにとっては、大学での教育に至らないところがあるせいもあって、さぞ頼りない若者たちに見えるのではないかと思います。

みなさんのそれぞれの組織の中でのお立場を考えると、新入社員は、足下の小さな草花に過ぎないかもしれません。しかし、足下の小さな草花も、それぞれ、春を迎えて成長しようとしているのだとお考え頂きたいのです。果たして花が咲くかどうかも分からない、蕾があっても、いつになったら開いてくれるものやらと、歯痒い思いをなさるだろうとも思います。ですが、ここである言葉を紹介したいと思います。

花看半開 花は半開を看る

これは、中国の明の時代の文化人、洪自誠(万暦年間 1573～1620の人物)が記した随筆集『菜根譚』の中の文章に見える言葉です。全体は次のようになります。

花看半開 酒飲微醺 花は半開を看(み) 酒は微醺(びくん)を飲む

此中大佳趣 此(この)中(うち)に大(おお)いに佳趣(かしゅ)あり

若至爛漫骸陶 若(も)し爛漫骸陶(らんまんもうとう)に至(いた)らば

便成悪境矣 便(すなわ)ち悪境(あくきょう)を成(な)す

履盈満者 宜思之 盈満(えいまん)を履(ふ)む者(もの) 宜(よろ)しく之(これ)を思(おも)うべし

全体としての意味は、満ち足りた境遇にある人は、万事控え目であることこそ最適であることをよく自覚するべきだ、というほどの内容ですが、最初の一句の「花看半開」だけを禅語として取り上げ、お茶席の掛け軸などで鑑賞する場合には、微妙に解釈が変わることがあります。全てのものは変化していき、完成の後には爛熟と崩壊しかないので、むしろ未完成のものやその不均衡にこそ、優れた美しさがあるのだ、という意味にもなります。

なかなか思い通りに動いてくれなかったり、期待通りの力を発揮してくれなかったりする若者は多いと思います。しかしだからこそそこには可能性があります。蕾の中に未だ見ぬ美しさがある潜んでいるかもしれません。あるいは、組織の内外の情勢が刻々と変化していくにつれて、これまでの常識では対応できない状況になったとき、そういう若者こそ活躍してくれるかもしれません。

少子化が進んで若者の割合が減り、これからの社会では益々貴重な人材になっていきます。どうか、甘やかし過ぎない程度に、深く慈しんで下さい。どうぞ宜しくお願いします。本日の会長挨拶は以上です。

### (3) ゲストの紹介

・新潟明訓高校 | A顧問 斎藤圭太先生

・インターアクター

嶋倉穂南さん、樋口真紀さん、村上このかさん、

坂上美卯さん、大塚有華さん、飯濱圭さん

### (4) 委員会表

・竹石 松次 次期会長より次年度委員会表について

### (5) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(安藤 栄寿幹事)

若杉 武君

### (6) ニコニコボックス紹介(村松 敦委員)

・岡田茂久君 先週末、新潟日報での記事にも取り上げて頂きましたが、ホテルイタリア軒の第二期の改修工事を終えることが出来ました。12階の Gondola はスカイバンケットとして、今後は婚礼・宴会と多様なご利用が可能になります。また2階の中華レストラン、同じく会員制倶楽部「イタリア倶楽部」も全面的に改装し、明日4月1日より新装開店

致します。「イタリア倶楽部」は会員募集を行っております、ご興味ある方は見学も可能ですので、お気軽にお声がけ下さい。引き続き、イタリア軒を宜しくお願い致します。

・本間 彊君、内田直紀君 本日、新潟明訓高校のインターアクトクラブの生徒さん、斎藤先生を迎えニコニコしております。

・福地 利明君 3月26日結婚の件は忘れていました。ありがとうございました。女の古いのも忘れていました。

・小田 等君 昨日、お花が届きました。あらためて何回目かと調べてみたら珊瑚婚式ということでした。取り敢えず近所でささやかに二人で外食しました。ささやかにニコニコです。

### (7) 表彰

・鈴木滋弥さんへロータリー財団メジャードナークリスタル楯、ダイヤモンドピンとペンダント贈呈

### (8) 幹事報告(安藤 栄寿幹事)

・越後春日山ロータリークラブが5月17日にホテルハイマートに於いて創立20周年式典を開催致します。登録料は15000円です。詳細、登録希望の方は4月10日までに新潟クラブ事務局へお願い致します。

### (9) 新潟明訓高校インターアクター

#### 海外研修参加報告



(10) 本日の出席率 78.26 %

会員数96名(出席免除会員7名)

出席者72名(出席免除会員3名を含む)

(2週間前メーク後 87.37 %)

### 4月7日の例会予定

卓話 農商工連携による「いもジェンヌ」プロジェクト  
JA新潟みらい西営農センター 中野正憲氏

新潟ロータリークラブホームページアドレス  
<http://www.niigatarc.jp/>

## 新潟ロータリークラブ料理研究会報告

幹事 吉田 和弘

3月27日の金曜日。年度末のお忙しいなか、第10回の料理研究会に7名の会員に参加いただきました。

今回は10回目という区切りですので、念願叶いまして、作ったあとのアルコールが解禁となりました。

本当は作りながら飲みたいところでしたが、指導員から言下に否定されましたので、冷たいビールを頭に思い浮かべながら、水餃子作りに挑戦いたしました。

焼き餃子は市販品の皮を使うことが一般的ですが、我々が料理研究会、皮を自前で作ることからスタートです。微妙な水加減、こね加減、包み加減で完成した水餃子は、茹でる最中に中身が脱落するハプニングもありましたが、モチモチの歯ざわりで「本場、西安の餃子より旨い」(田村さん談)という出来栄となりました。

他に、中華風から揚げやカニと豆腐の煮込みをお供に、ビールと紹興酒を楽しみました。

次回は「かき揚げ」になるとか、ならないとか。詳細は次報をお待ちください。



生地から作りました。



中華包丁を操る玉さん



包むのが難しい・・・！



本物のビール付き